

ぐんま名月(ぐんまめいげつ)

登録番号：第2816号

育成者：中條忠久 堀込 充

登録年月日：平成3年9月7日

来歴：「あかぎ」と「ふじ」の交雑

登録者：群馬県(前橋市大手町1-1-1)

実生

特性

■栽培特性と栽培上の留意点

樹姿は開張性。樹勢は中でややスパータイプ的性状を有し、短・中果枝の着生は良好である。えき花芽の着生は中で、結果樹齡に達するのは「あかぎ」に似て早く、豊産性である。1花叢の花数、花の大きさ、花弁の数、雄ずいの数、やくの色は一般栽培品種と同等であるが、花の色は濃桃色を呈する。

育成地における発芽期は3月下旬、開花期は5月上中旬で一般栽培品種とほぼ同時期である。主要栽培品種との交雑和合性は極めて高く、いずれの品種とも相互受粉樹とすることができる。樹勢が正常な場合、早期および後期の生理的落果はほとんど認められず、安定生産が可能である。果実の成熟期は10月下旬で「王林」とほぼ同じ。

黄色品種であることから着色管理の必要がなく、果皮表面のさび、ひびの発生も少ないことから無袋栽培が可能で、省力化しやすい品種である。

側枝の発出角度が比較的広く整枝剪定は容易であるが、スパータイプの様相を呈することから側枝の発出数がやや少ない傾向がある。このため、とくにわい化栽培においては側枝の数を増やし、生産力を高めるための適度な繰り返し剪定が必要である。

■果実特性

果形は円錐形で王冠は目立たない。がくあへの深さ、広さおよび梗あへの広さは中位であるが、梗あへの深さは深いほうである。果実の大きさは280～300gである。果皮色は黄色であるが陽向面がわずかに淡桃色に着色する。さび、ひびの発生は極少～無で、果点は小である。果皮の光沢、ロウ質物の発生は中で果面は平滑である。果梗は短く太さは中位で肉梗は見られない。果肉は黄色で硬さおよびきめは中、蜜入りは多である。果肉褐変の速度および程度は中である。糖度は15%前後と高く、酸度が0.3%程度と低いため甘さが勝り、果汁多く香りもあることから食味は極めて優れている。これまで果実の生理障害は認められておらず、日持ち性も比較的高い。

■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対しては強度の抵抗性を示す。また、うどんこ病にも強いことから、減農薬栽培の可能性が高い品種と考えられる。

■地域適応性

群馬県内の試作では、年平均気温14℃前後の平坦地から、標高の高い地帯での栽培が可能と判断されている。県外においても比較的温暖な地域から寒冷地にかけてかなり幅広い適応性を示すものと考えられるが、現在、各地で検討が進められている段階であり、その結果に期待したい。

なお、群馬県においては、品種構成割合で6%を目標として増植中であるが、消費者からの要望が強いことから、10%前後の構成比となる可能性が高いものと推測されている。

(中條忠久・堀込 充)